

<b>第4回奈良市学校部活動のあり方検討懇話会の意見等の概要</b>	
開催日時	令和6年11月25日（月）午後3時から午後5時まで
開催場所	奈良市役所北棟2階202会議室
意見を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業の進捗について</li> <li>・今後の方向性について</li> </ul>
参加者	参加者13名、事務局12名
開催形態	公開（傍聴人0人）
担当課	教育部学校教育課 市民部スポーツ振興課 市民部文化振興課
<b>意見等の内容の取り纏め</b>	
事務局より、以下の点について参加者に意見を求めた。	
<p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>○実証事業の進捗について            〈参加者からの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参入する実施団体があるか不安だったが、8団体が参加し、スムーズに運営ができています。</li> <li>・特にサッカー部のないならやま中学校では、子どもたちが学校でサッカーができると喜んでいる。</li> <li>・実証事業のため、連絡方法や子どもたちの参加が無かったときの対応など、想定はしていても明確なルールがなく、運営がスムーズにいかないところが課題である。</li> <li>・課題を共有し、広く公開することで、実施団体の新たな参入につながると考える。</li> <li>・現在、中心は中学生だが、卒業後の高校生も参加できれば、下級生を教えていくつながりが生まれ、持続可能な団体となる。</li> <li>・現在は課題の方が多いが、例えば現在実施団体である少年野球の指導者からは、他の地区でも同様の活動をすることがイメージできると聞いている。</li> <li>・モデル地区の対象校以外の参加はどれだけあったのか。              →詳細は各チームの報告を待って回答するが、小学生が主で、対象地域以外の近隣校区や、競技未経験の児童生徒の参加があった。</li> <li>・中学校の選択肢が広がる良い取組であるが、安全管理の観点から、特に小学生が参加する際の安全確保について、どのような対応をされているのか。              →申込みの際に緊急連絡先の提出を求め、連絡体制は整えている。また、傷害保険へ加入し</li> </ul>	

ている。

- ・指導者の方はすべて地域コミュニティから来ていただいているのか。  
→サッカー以外は、すべて地域の方である。サッカーは実証事業のために地域外から運営団体に登録されている。
- ・参加費と保険はどうなっているのか。  
→参加費は無料である。保険は個人で入ってもらう方向で進めているが、念のため平城ニュータウンスポーツ協会で、傷害保険に入っている。掛け金は委託金で賄っている。

#### ○今後の方向性について

〈参加者の意見〉

- ・地域の中で指導者を見つけることが困難な状況である。例えば、奈良市内外のクラブチームを一覧にまとめ、参加を促していく考えはあるか。  
→たくさんの実施団体を紹介する必要があると認識している。一方で、営利団体の扱いなど、慎重に検討を進める必要があると考える。
- ・資料にあるゾーニングマップでいくと、平城ニュータウンスポーツ協会が11校をカバーするということか。コントロールする学校が多くなることでガバナンスを効かせることが難しくなると考えるため、いずれはサテライトのような組織を立ち上げて、運営するビジョンも必要である。
- ・参加に際しては、送迎を保護者がすることが必要か。  
→保護者の送迎は必要になると考えている。可能な限り、自分で移動できる範囲で参加することができる仕組みを求めたい。しかし、仮に東部の児童生徒が参加するために、移動の補助をしたとしても時間とコストは発生する。
- ・地域の子どもたちに実証事業の感想を聞くと、反応は非常に良好である。地域もこの取組を応援したい。
- ・現在のところ8団体が活動しているが、今登録されている団体以外で、受け皿として子どもたちの要望を満たす団体を確保できる想定はあるか。  
→現在のところ具体的な数は想定できていない。それぞれの地域で、必要な競技、種目等には違いがある。地域や子どもたちの想いを聞きながら、実施団体の確保を進めていきたい。
- ・音楽関係では現在市町村に団体は存在しない。特に吹奏楽は、学校の部活動で成り立っている。
- ・県吹奏楽連盟としては奈良市において団体を立ち上げることについて相談しており、指導者は意欲的な顧問の先生が担うことが基本となることを想定している。先生方の応援をしながら、この取組に協力したい。
- ・休日に部活動がなくなると、専門性が高い吹奏楽部は質の確保がしづらいため、休日と平日ともに、練習時間を確保できる活動を進めてほしい。
- ・市音楽教育振興会としても、県吹奏楽連盟の協力はありがたい。一方で教員が指導者になることで、施設の管理、改善や時間の制約等様々な課題が生じるとともに、吹奏楽部以外のギター・マンドリン部等も共通の課題が生じると想定している。
- ・ゾーニングは慎重に進める必要がある。
- ・過去には、総合型スポーツクラブの立ち上げの際、既存の活動が実施団体に参加することが

少なかったり、指導者に指導経験が少なかったりとうまくいかなかった場合もあった。

- ・地域で子どもを育てる活動を進めるうえで、学校部活動、競技や文化団体など、すべての資源が必要となる。
- ・ゾーニングのマッピングにもっと地域にある活動資源を表記しながら、進めるべきであり、子どもの体験格差の溝を埋めることと、子どもの移動の安全性が確保できる環境を教育委員会、スポーツ振興課、文化振興課の情報を合わせて作成していくと良い。
- ・市スポーツ協会では、成人団体 36 団体とスポーツ少年団約 60 団体がある。
- ・ゾーニングについては早く進めることにこだわり、焦りすぎではないか。
- ・部活動から地域展開という流れを十分に周知してからでないと、一部の指導者に負担がかかり、無理が出てくるのではないか。
- ・市スポーツ協会は各地域に啓発しながら、新しい団体の立ち上げや、その団体を支援するのがその役目である。
- ・まずは、意欲のある人材を確保することから、広げていくことが大切なのではないか。
- ・総合型スポーツクラブは、指導者だけでは成り立たない。コーディネーター等の運営が必要である。
- ・子どもが減り、競技人口がどのスポーツでも減っている中、マルチスポーツを受け入れるために、各競技への参加の敷居を低くすることが重要である。
- ・共通理解として、10 年後に地域クラブを作るイメージを持つと良い。今の議論に加えて、世代を超えた縦のつながりを生み出すことや地域クラブのイメージを共有して議論することが重要であることからして、そうしたイメージ図があると良い。
- ・東部地区に指導者や資源が少ないことをカバーするために、西部から東部へ指導者を派遣することなどは想定されているか。  
→指導者が各地域に出向くイメージも持っている。
- ・今の議論は重要であり、西部と東部は同じ事業展開にはならないため、指導者、特に公認指導者の資源も含めて、あらためて把握をすることが重要である。
- ・平城ニュータウンスポーツ協会でも、月ヶ瀬地域に指導者を派遣しているケースがある。
- ・学校との関係づくりにおいて、ならやま小・中学校では、平城ニュータウンスポーツ協会との連携を担当してくれる先生がいる。そうした役割も必要ではないか。
- ・資料 3 について教員の働き方改革の文脈として、現在の部活動後に残務を行う形は避けるべきであり、非認知能力の資質育成を育てる役割の一翼を担っていた部活動の運営を、子どもたちが主体的に取り組める活動にするのはよい案であると考える。
- ・競争性のある活動は、そういう志向を持った外部の既存団体へ参加する流れでいいのではないか。
- ・非認知能力の育成は生徒会が担えばいい。その活動の中に部活動があれば良い。
- ・スポーツで言えば、体育の授業を自分たちで計画することや、授業改革との関連性を踏まえ、学校に地域の指導者が入ることで、活動の裾野が広がれば良い。
- ・吹奏楽では子どもが主体的に活動するのは難しく、大人の介入が必要な活動であるため、専門性を一部求めるようなレベルのゾーニングがあっても良いのではないか。